

1 事業名

平成27年度教育事業「体験の風をおこそう」運動協賛事業  
集団の力を活かすアドベンチャープログラム体験会

2 趣旨(事業の目的)

PA(プロジェクトアドベンチャー)の手法を生かしたプログラムの体験をととして、集団の力や個人の自己成長力を高めるための指導理念・方法を取得し、指導者・支援者としての知識や技能、資質の向上を図る。

3 期日

平成27年6月2日(火)

4 参加者

教職員, 青少年教育施設職員, 青少年教育に興味・関心のある方 9名

5 連携・協力

○後援 岩手県教育委員会

○協力 岩手県市町村教育委員会(盛岡市, 滝沢市, 八幡平市, 花巻市, 遠野市, 北上市, 奥州市, 一関市, 陸前高田市, 大船渡市, 釜石市, 宮古市, 久慈市, 二戸市, 矢巾町, 紫波町, 岩手町, 雫石町, 葛巻町, 西和賀町, 金ヶ崎町, 平泉町, 住田町, 大槌町, 山田町, 岩泉町, 洋野町, 一戸町, 軽米町, 田野畑村, 普代村, 野田村, 九戸村)

6 内容

(1) 日程

8:30	9:00	9:30	12:00	13:00	16:00	16:30
受付	開会行事	【アクティビティ 実習】	昼食・休憩	【プログラム実習】	閉会行事	解散

※【アクティビティ実習】の内容

- ・後だしジャンケン ・パンパンリズム ・自己紹介→ネームトス ・ジャンボジャンボジャンボ
- ・ジムのボタン工場 ・キャッチ ・人間知恵の輪 ・キーパンチ

※【プログラム実習】の内容

- ・講義

(アドベンチャープログラムについて・フルバリューコントラクトについて・ファシリテーターの視点について)

- ・ヘリウムフープ ・ビーイング ・TP シャッフル ・モホークウォーク ・ニトロクロッシング

(2) 指導者

- ・国立岩手山青少年交流の家
- ・国立岩手山青少年交流の家
- ・国立岩手山青少年交流の家

- 企画指導専門職
- 企画指導専門職
- 事業推進係長

- 高橋 省一
- 中村 聡
- 田口 康宏

### (3) 企画のポイント

事業の目的を達成させることともに、地域にプロジェクトアドベンチャーの理念を広げることにもめざした。そのため、アドベンチャープログラムの体験を中心として日程を組み、初めて体験する方にも無理なく理念が伝わるようにした。

### (4) 広報のポイント

岩手県内の青少年宿泊研修施設や社会教育施設の他、岩手県内の全ての小中学校並びに高等学校にチラシを配布するとともに、本施設のホームページを活用し、事業の周知を行った。

### (5) 運営のポイント

体験を中心としながらも、プロジェクトアドベンチャーの理念が参加者に伝わるように、講義も織り交ぜた日程で運営にあたった。

参加者自身が、グループの高まりや個人の学びを実感できるように、参加者全員が一つのグループとして様々なプログラムを体験するようにした。

## 7 成果とその普及

アンケート調査による総合的な満足度は100%であった。体験することを中心にしたことで充実感を味わうことができたと思われる。「初めての体験が多くあり、とても参考になった。特に、島渡りは不可能かと思われたが、その分できた時の喜びは大きいものがあった。難易度が高い分、そのプロセスも楽しめた。」「実際に活動を試みることで、聞くよりもよりよくアドベンチャープログラムの効果について知ることができたと思う。」といった感想が寄せられた。

参加者は、普段は教育施設や公民館で青少年教育に携わる場面が多く、「公民館での子供向け事業の運営の参考にといい、参加した。参加した皆さんと交流しながらとても楽しく体験できた。自分自身も楽しみ、お互いに心を開き合うことでより良い講座運営につながると思う。そういった意味で、今回の体験はとても参考になった。より良い講座作りができるように、職場に戻り頑張りたい。」という感想も聞かれた。

企画の概要・報告書等は、岩手県内の青少年宿泊研修施設や社会教育施設、以前小中学校並びに高等学校に配布する。また、ホームページへの掲載や館内への写真掲示による紹介をとおして、幅広く普及に努めたい。

## 8 今後の課題

事業の広報は、岩手県内に幅広く行ったものの、参加希望者は予定よりも少なかった。それに伴い、6月2日と3日に2回開催する予定が2日の1回開催となった。より多くの方々が本事業に興味をもつことができるような広報の仕方を考えたい。事業の報告や、アドベンチャープログラムの理念・効果が広く伝わるようなPR活動の方法を具体的に考える必要がある。



全員でエレメントの  
「島渡り」に挑戦



「ビーイング」で  
個々の意見をシェア



アクティビティーの  
「キーパンチャー」